

# JCA NEWS



Japan Communication Association (JCA) Newsletter

日本コミュニケーション学会ニュースレター



## CONTENTS

1. 巻頭言	..... 1	6. 事務局報告	..... 14
2. 私にとってコミュニケーション学とは	..... 3	7. 広報局便り	..... 16
3. 第50回記念年次大会	..... 5	8. 支部ニュース	..... 18
4. 2020年度 第3回理事会報告	..... 6	9. マイページ登録のお願い	..... 22
5. 学術局からのお知らせ	..... 12	10. 編集後記	..... 22

127  
2021.5

## 巻頭言

日本コミュニケーション学会会長 高井 次郎 (名古屋大学)



日本コミュニケーション学会は、1971年に「日本太平洋コミュニケーション学会」として創立され、その後1985年に現在の「日本コミュニケーション学会」に名称変更されました。昨年の大会において50周年を盛大に祝う予定でしたが、残念ながら大会は1年延期され、今年の大会で学会の誕生から半世紀を会員の皆さまとともに祝福することができることになりました。

年次大会は会員が相互に顔合わせし、同じ学問の研究者として最新の研究成果を共有し、情報交換を行い、懇親を深めるための学会、学会の活動として最も重要な機能を果たすイベントです。

そのイベントが昨年は見送られ、あるうことにそれが50周年を祝う大会のはずでした。1年経過した今でも、コロナ禍の状況は一向に改善されておらず、ますます深刻化する一方のように思われます。

こうした状況をもちまして、本年度の年次大会は学会の50年の歴史においてはじめてのオンライン大会となります。大会テーマは「コミュニケーション学<sup>アクチュアリティ</sup>の現在地/現在知」で、ICT(Information and Communication Technology)を駆使した大会は、正にテーマ通りであります。海外のコミュニケーション学会に出席しても、強く時代の変遷を感じさせられます。コミュニケーション研究の最先端はデジタルコミュニケーションへと、すでにパラダイム・シフトが起こっており、現にアメリカの伝統のある「スピーチ・コミュニケーション」学科が、次から次へ「コミュニケーション・サイエンス」や「メディア・コミュニケーション・スタディーズ」へ改変しています。

今回の50周年記念大会も、基調講演者に丸幸弘氏(株式会社リバネス 代表取締役 CEO)をお招きし、コロナ禍におけるサイエンスブリッジについてお話を聴かせていただきます。丸氏は東大大学院在学中にベンチャー企業であるリバネス(Leave a Nest)を立ち上げ、それ以来科学技術と社会の接点についてさまざまなプロジェクトに従事されています。われわれの日常的コミュニケーションも、パンデミックによって一層ICT中心になっています。科学技術が人間のコミュニケーションにどのような影響を与えるのかについて、丸氏の話が聴けることを大いに期待しています。

その他にも、大会では多くのパネルセッションや研究発表を控えております。特に、50周年記念シンポジウムにはコミュニケーションに関連する他学会の会長や理事を招いて、今後のコミュニケーション学の行方について協議します。なお、今回の記念大会はオンラインのため、会場費用などは発生せず、会員の皆様には無料で参加していただけます。しかも、ご自宅でくつろぎながら、移動する必要もなく次から次のセッションに移れます。

6月12日(土)と13日(日)は予定を空けていただき、日本コミュニケーション学会50周年記念大会にぜひご参加いただけますよう、どうぞよろしく願いいたします。JCAの50歳の誕生日を皆様と一緒に祝えること、楽しみにしております。

JCA JAPAN COMMUNICATION ASSOCIATION  
THE 50th ANNUAL CONVENTION

第 50 回  
周年記念年次大会

日本コミュニケーション学会

コミュニケーション学の  
アクチュアリティ  
現在地 / 現在知

2021. 6/12 (土) - 6/13 (日)

## 私にとってコミュニケーション学とは

日本コミュニケーション学会理事（渉外担当）

末田 清子（青山学院大学）

コミュニケーション学とは、私にとって「私」を形づくるプロセスの全てであり、そしてそれに係る理論は私たちの日常生活に適用しうるものであると思う。

私はこれまでかなりの時間をフェイス（面子）とアイデンティティがコミュニケーションにどのように関わるかについて探究するために費やしてきた。「私は誰だろう？」と自問したとき、「教員である」、「人間である」、

「日本人である」などいろいろな回答があるだろう。その回答は、どのような場所でコミュニケーションが起こっているか、どのような話題と結びついているかなど状況によって変わる。しかし、他方での内的な要因によってもかなり変わる。とくに自分が呈示したいイメージが壊れるあるいは壊されるような事態つまりフェイスを脅かされる（された）ようなときに「自分は何者であるか？」の意識やその表出の仕方が変わってくる。

たとえば、私のアメリカ人の友人は、日本人と結婚し日本に40年以上住んでいて日本通である。しかし、オリンピックは嫌いだそうだ。なぜならオリンピックというコンテキストがナショナリズムを高揚させ、自分は「アメリカ人」あるいは「日本人」という分断が家族の中にも生まれるからだという。その背後には、日本通の彼女の親和フェイス（つながりたいというフェイス）に対する脅威が横たわっている。

また、これまで私が大学で出会った多くの「帰国子女」とカテゴリー化される学生たちにも同じことが言える。「帰国子女」にもいろいろなパターンがあり、「帰国子女であること」を言おうとしない者、積極的に表明する者、「帰国子女であること」は本人にとって大切な一部ではあるがあえて言うほどのことではないとする者がいる。言おうとしない者の中には、帰国時にネガティブな経験をした者もあり、フェイスの心理的側面であるシェイム（遺憾な気持ち）が払拭されていないことが多い。



帰国子女に限らず、国際児、性的マイノリティ等とコミュニケーションしていくなかで、どう名乗るか、どう自分を表現するかは、アイデンティティの持ち方に関わり、そのアイデンティティの持ち方はフェイスが脅威にさらされているか、脅威にさらされたときにシェイムを払拭したか、迂回されて蓄積されてしまったかどうかに関わる。

そして、このテーマは多くの場面で頻出する。教室で「ほめる」、「叱る」などもフェイスそしてアイデンティティに強く結びついている。何を異文化コミュニケーションとみなすかはどのようなアイデンティティをコミュニケーターがもっているか、そしてそれがどのように顕在化するかに関わる。何を買うか、国産品に拘るか、なぜ大阪の友人が話す話し方がうつるのに、それ以外の地域の出身者のことはあまりうつらないのか？女性管理職者のコミュニケーションスタイルにはどのような特徴があるか？犯罪者の更生にどのようなコミュニケーションが必要とされるか？ネイティブ・アメリカンはどのようにシェイムを払拭し、コンフリクト解決するか？など枚挙にいとまがない。たまに知り合いに「新しい研究テーマにこの頃移ったの？」と訊かれることがあるが、「いいえ、とんでもない」の一言である。これはすべてフェイスやアイデンティティに関連し、そしてそれをどのように「コミュニケーションする」か、あるいは呈示するかに関わっている。一見関係なさそうに見えるテーマも、アイデンティティやフェイスという窓からみると日常のコミュニケーションがよく見渡せて興味深い。

そもそも私がフェイスというテーマや、その接点としてアイデンティティに辿り着いたのは大学院時代の日常中である。授業課題のレポーターを決めるときに、他の学生はすぐに論文を選んだ。あれこれ考えているうちにすっかり出遅れ、一本残っていた論文が、フェイスに関わる Cupach と Spitzberg の論文だった。つまり当時あまり主流ではなく誰も手をつけたがらなかった「残り物」を頂いたわけである。もちろん、そのときはまさかその後数十年もそれにお付き合いするとは思わなかった。偶発性を大切にしたら結果、私にとっては必然的な研究テーマになった。残り物には福があった。

## 第 50 回記念年次大会

学術局長 小西 卓三

**第**50回記念年次大会は、2021年6月12日（土）、6月13日（日）の2日間、完全オンラインで開催されます。これまでにない運営形式の大会の成功に向けて、現在準備を進めております。学術担当の副会長の守崎誠一先生、関西支部長の小山哲春先生を中心に、会長の高井次郎先生、学術局の日高勝之先生、菅野遼先生、事務局の松島綾先生、宮脇かおり先生、広報部の松本健太郎先生、関東支部長の田島慎朗先生にはご尽力いただいていることを心より感謝申し上げます。

さて、今回のテーマは「コミュニケーションの<sup>アクチュアリティ</sup>現在地／現在知」です。昨年度中止になった大会テーマを引き継いだものですが、前学術局長の山口生史先生、松本健太郎先生を中心とする先生方が考えていた時と世界の状況は変わり、コミュニケーションのありかたもずいぶん変わったことで、より一層アクチュアルなテーマになっています。

1日目の丸幸弘氏（株式会社リバネス 代表取締役 CEO）の基調講演タイトル「分断の時代に求められるサイエンスブリッジコミュニケーション」は、コロナ禍で分断される世界をつなぐコミュニケーションというポジティブなイメージを持つものとなっております。その直後に開催されるシンポジウムは、「コロナ禍とコミュニケーション」というテーマで、基調講演を踏まえつつ現状の問題を直視し、清宮徹先生（西南学院大学）、青沼智先生（国際基督教大学）、塙幸枝先生（成城大学）という、多様な研究領域・アプローチを含むコミュニケーション学の強みを出すことのできる方々による議論を、「会場」の方々と交えておこなってまいります。

また、2日目には記念シンポジウムも開催されます。「コミュニケーション学のこれまで・これから～近隣学会との位置関係を確認、共に進むため～」というタイトルで、日本ヘルスコミュニケーション学会、多文化関係学会、異文化コミュニケーション学会、日本マス・コミュニケーション学会の先生方をお招きいたします。「コミュニケーション」が鍵語となるこれらの学会の方々との交流をもとに、本学会員の方が様々な研究・実践のアイデアを得られることを学術局としては強く期待しております。

## 2020 年度 第 3 回理事会報告

日 時：2021 年 3 月 28 日 (日) 13 時～16 時

会 場：オンラインでの開催

上記日程・会場において、2020 年度第 3 回理事会が開催された。会長、副会長（2 名）、理事 19 名の出席により理事会は成立した。

### 【会長挨拶】

せっかくのお休みのところ、今年度最後の理事会にご出席いただきましてありがとうございます。今回は特に記念年次大会に向けての準備・検討が中心となります。そのほかにも多くの議題がありますので、少し長くなるかもしれませんが、どうぞよろしく願いいたします。

### 【審議事項】

#### 【1】第 50 回記念年次大会関連

##### 1. 学術局

小西学術局長より、第 50 回記念年次大会（2021 年度年次大会）の参加申し込み・受付方法について、Google forms を利用した方法が原案として示された。国際文献社への委託についても言及があったが、委託料金が発生するために現実的な選択肢ではないだろうとの意見があった。

審議の結果、大会組織委員会が原案に沿って検討を進めることとなった。

#### 【2】各局

##### 1. 事務局

###### (1) 国際文献社 2021 年度契約書について（松島）

来年度も国際文献社との契約を継続することと、その契約内容に変更がない旨の説明があった。審議の結果、いずれも承認された。

###### (2) 2021 年度予算案（宮脇）

作成中の来年度予算案について、次のような説明があった。

—収入の部：会員数減少に伴い保守的に見積もる。

：第 50 回記念年次大会がオンライン開催（参加費無料）となることで、年次大会に関わる収入はゼロとなる。

—支出の部：ジャーナルの印刷部数を 350 部から 300 部へと減らす。これは、会費納入者＝ジャーナルの発送数（236 部：2020 年 11 月時点）にもとづいた対応である。

：年次大会のポスター製作（外部委託によるデザイン料が発生）について、オンライン開催における要／不要を検討していただきたい。

- : 50周年図書発行費は未定である。
- : 約30万円の支出増（昨年度比）となる予定である。

ポスターについて、審議の結果、第50回記念年次大会においても製作することとなった。ただし、従来のように業者へ委託するのではなく、高井会長が大学院生に制作を依頼する。

予算案は現時点のものであり、今後も各局の意見を聴取しながら調整することも承認された。

(3) ジャーナルのバックナンバーの保管期限について（宮脇）

ジャーナルのバックナンバーに対する保管料について、棚ひとつにつき3000円、箱ひとつにつき250円が毎月発生しているとの説明があった。その対応として、毎号15部を残して他は廃棄し、保管量を減らすことが提案された。審議の結果、承認された。

(4) 2019年度に支給している支部への助成金（東北支部、中部支部）について（宮脇）

今後は支部活動助成金と支部大会助成金の繰り越しを認めず、未使用分はいったん事務局へ返還することにしたとの提案があった。審議の結果、改めて事務局で検討し、原案を提示することとなった。

(5) 若手サポート助成金の使い道と「若手」の定義について（宮脇）

若手サポート助成金について、「若手」の定義を明確にすべきであり、助成金の用途に関しても検討の余地があるとの説明がされた。事務局からは次のような定義例と用途例が提示された。

定義例：院生もしくは大学院卒業後〇年以内で非常勤の人

用途例：ジャーナル抜き刷りの無料進呈／旅費の支援／大会参加費免除

審議の結果、改めて事務局で検討し、原案を提示することとなった。

(6) ニュースレター発行時期と内容について（松島）

ニュースレターの新たな発行スケジュール（年3回発行は変更なし）が提示された。

- ① 5月20日付…第3回理事会の報告など。
- ② 10月1日付…第1回理事会と総会の報告、年次大会発表募集（6月の年次大会で次年度のテーマを告知しておく）など。
- ③ 2月1日付…第2回理事会の報告、年次大会の開催場所周知、年次大会発表募集（リマインド）など。

審議の結果、上記のとおり承認された。

(7) 理事会日程について（松島）

ニュースレター発行時期の変更にあわせて、理事会日程（年3回開催は変更なし）も変更したいとの提案があった。

第1回理事会：年次大会の前日（年次大会がオンライン開催の場合は、より早まる可能性あり）



第2回理事会：10月～12月

第3回理事会：3月上旬～中旬

審議の結果、上記のとおり承認された。

#### (8) 日本学術振興会賞推薦依頼について (松島)

日本学術振興会賞への推薦を本学会でも行いたいとの提案があった。あわせて、今年度については締め切りが差し迫っていることから推薦を見送るとの報告もあった。審議の結果、類似の推薦依頼も含めて、そのつど事務局と理事が検討し対応を決めることとなった。

## 2. 学術局

#### (1) 2022年度年次大会とそれ以降の大会について (小西)

—今後の年次大会の場所について

学術局は、年次大会に関して、テーマおよび基調講演者の候補選定を担っている。一方で、開催場所 (=担当支部) の選定は誰が行うのか定まっていない。年次大会が全国大会であることを鑑みて、会長が中心となって担当支部の選定を行っていただきたい (具体的な開催校選定は担当支部の業務)。

—場所とテーマとの関係性について

理想としては、数年先まで開催場所 (=担当支部) とテーマを決めておきたい。また、2022年度 (第51回) 年次大会のテーマとして「危機とコミュニケーション」を提案する。

以上のことについて、審議の結果、いずれも承認された。年次大会の担当支部については、学術局と相談のうえ会長が依頼することとなった。基調講演者やテーマは、開催場所や時事を考慮して検討することも確認された。

#### (2) ジャーナル関連 (大橋)

学会賞に関して、次のような説明があった。なお、学会賞の選定時、候補となった森泉中部支部長には一時退席をお願いした。

—学会賞の候補決定について

論文の部：森泉 哲 “Who Seeks Social Support from Whom?: Considering Impacts of National and Familial Cultures from Socio-Ecological Perspectives.” 『日本コミュニケーション研究』第49巻第2号 (2021年5月発行予定)

書籍の部：該当なし(応募なし)

奨励賞：該当なし

—学会賞の表彰について

2020年度年次大会の中止に伴って授賞式ができていない。また、第50回記念年次大会 (2021年度年次大会) もオンラインでの開催が決まっており、例年通りの授賞式の実施ができない。どのような対応をすればよいか。

審議の結果、学会賞は原案のとおり承認された。また、学会賞の表彰式については、2大会分をあわせて実施する（オンライン）こととなった。

### 3. 広報局

#### (1) 旧サーバからの支部ホームページの移行計画について（松本）

現在、各支部ホームページ・理事会メーリングリスト・各支部運営委員メーリングリストははまだ旧サーバで運用されており、新サーバへの移行が完了しないと旧サーバとの契約を終了できない旨の説明があった。そこで、まずは各支部内で支部ホームページに関する整理・検討（新ホームページの形式など）をしていただき、その結果を今年の夏（8月頃）には松本広報局長へご報告いただきたいとのことであった。また、ホームページを移行するだけであれば来年度予算案にて対応可能（計上済み）であるが、新設やリニューアルなどを希望する場合は、可能な限り支部の予算で賄っていただきたいとの説明も付された。

審議の結果、いずれも承認された。

### 【3】各担当理事

#### 1. 50周年担当理事（宮原）

50周年シンポジウム登壇者のうち1名の都合がつかなくなり、登壇者が5名から4名に変更されることが説明された。また、未定であったファシリテーターは宮原50周年担当理事が務めるとの説明もあった。

審議の結果、上記の件についていずれも承認された。

あわせて、50周年シンポジウムの内容（トランスクリプトなど）をジャーナルに掲載することも提案され、承認された。

### 【報告事項】

#### 【1】第50回記念年次大会関連

—応募件数、発表件数について

個人発表7件、パネル発表3件の申し込みがあり、すべて発表を許可した。

—基調講演について

講演者は丸幸弘氏（株式会社リバネス）であり、変更はない。講演は事前録画したものを当日公開することとなった。演題は「コロナとサイエンスブリッジ」「災禍とサイエンスブリッジ」「災害とサイエンスブリッジ」のいずれかを予定している。

—シンポジウムについて

詳細は調整中であるが、司会が高井会長で決定した。

—公開及び非公開について

個人発表は非公開だが、基調講演とシンポジウム、および50周年シンポジウムは調整中である。

—運営主体について

- ・紹介文等の作成：高井会長
- ・大会実行組織：守崎先生と小山先生を中心に Zoom などの運営にあたる。
- ・プログラム作成：学術局
- ・会計、総会運営など：事務局。Zoom の契約などで経費が必要となる。
- ・ホームページなどでの告知：広報局。大会特設サイトの開設を検討している。業者に依頼するかどうかについては検討中である。

## 【2】各局

### 1. 事務局

#### (1) 入退会者および会費納入報告（脇）

会員数と入退会者の確認について報告があった。2021年3月16日時点での会員全体数は335名（一般会員：318名、学生会員：15名、準会員：1名、購読会員：1社）であった。また、2月に入会を承認されたものの入金完了しておらず、仮会員となっている方が1名いることも報告された。

### 2. 学術局

#### (1) ジャーナル関連（大橋）

- 『日本コミュニケーション研究』第49巻第2号が5月末に発行予定である。
- 『日本コミュニケーション研究』第50巻第1号は、投稿論文5編、再査読0本である。

### 3. 広報局

#### (1) ニュースレター125号および126号の発行と127号の予定（今井）

ニュースレター125号（2020年11月号）、ニュースレター126号（2021年2月号）が発行されたとの報告があった。次号となる127号は2021年5月に発行予定とのことであった。

#### (2) ホームページへの掲載情報（宮崎）

次の情報が学会ホームページに掲載されたとの報告があった（前回理事会以降、14件）。

- ・2021年2月24日【ニュース】[updated] 3月13日（土）2020年度中部支部大会開催のお知らせ
- ・2021年2月23日【ニュース】3月6日（土）関西支部春季研究会のお知らせ
- ・2021年2月23日【ニュース】3月20日（土）第27回九州支部大会のお知らせ
- ・2021年2月13日【ニュース】教員公募のお知らせ（国際基督教大学）2021年5月16日必着
- ・2021年2月10日【ニュース】教員公募のお知らせ（武庫川女子大学）2月21日締め切り
- ・2021年2月1日【ニュース】ニュースレター126号を発行しました
- ・2021年1月21日【年次大会案内】第50回記念年次大会の発表論文・企画セッション募集について
- ・2020年11月30日【ニュース】教員公募のお知らせ（東洋英和女学院大学）12月18日締め切り
- ・2020年11月20日【ニュース】教員公募のお知らせ（武庫川女子大学）12月1日締め切り
- ・2020年10月26日【ニュース】教員公募のお知らせ（麗澤大学）
- ・2020年10月23日【ニュース】ニュースレター125号を発行しました
- ・2020年10月14日【ニュース】異文化コミュニケーション学会（シータージャパン）第35回年次大会11月7日（土）・8日（日）開催のお知らせ

- ・2020年10月7日【ニュース】「NHK番組アーカイブス学術利用トライアル」2020年度第3回公募のお知らせ
- ・2020年10月7日【ニュース】九州支部ジャーナル発行のお知らせ

(3) メーリングリスト/Twitterでの情報発信（松本）

- ・ホームページ掲載情報のうち、会員向けに共有すべきものに関してはメーリングリストにて配信をおこなっている（前回理事会以降、22件）。
- ・ホームページ掲載情報、およびそれ以外の情報（会員の新刊情報等）を含め、学会公式 Twitter を通じて発信を行っている（前回理事会以降、20件）。

(4) 「ジャーナル論文の内容訂正」に関するホームページでの情報掲出について（松本）

ジャーナル論文の内容訂正について学会ホームページに掲載済であることが報告された。また、過去の訂正情報をいつまで掲載し続けるのか、ホームページに掲載した日付の明示が必要かなどについては今後検討することであった。

(5) メーリングリスト配信システムへのメール登録(マイページでの会員情報更新)のお願い（松本）

ニュースレターや支部などでの周知のおかげでメーリングリストの配信エラーが減少したと報告された。しかしまだ34件のエラーがあり、今後も引き続きマイページでの会員情報更新を呼び掛けるとのことであった。

**【3】各支部報告**

各支部報告を参照。

**【4】次回理事会開催日時・会場**

2021年6月6日（日）13時から。オンライン開催。：2020年10月3日（土）13時～16時20分  
会 場：オンラインでの開催

## 学術局からのお知らせ

### ジャーナルに関するお知らせ

『日本コミュニケーション研究』(Japanese Journal of Communication Studies)の第49巻第2号が5月末に発行されます。今回の学会誌には、2本の研究論文が掲載されています。通常、第2号には前年度の年次大会の基調講演の論考が掲載されているのですが、2020年度の年次大会が中止になったため、残念ながら今回は基調講演の論考はありません。

また、第50巻1号の投稿が本年1月末に締め切れ、5本の論文が投稿されました。こちらは11月末の発行を目指し、その後の作業が進められています。

加えて、現在第50巻2号(2022年5月末発行予定)への投稿論文を募集中です。締め切りは7月末日です。是非皆様の研究結果を論文としてご投稿ください。投稿は、ワード等で作成された「論文」及び「シノプシス」、「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、の3つのファイルを添付ファイルとして、指定メールアドレスに送付するという形でお願い致します。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。投稿される際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

To: journal[@を入れる]caj1971.com

CC: ohashiri[@を入れる]ouj.ac.jp

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の大橋(ohashiri[@を入れる]ouj.ac.jp)までご連絡ください。可能な限り迅速に対応いたします。皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

### 2019年度ジャーナル『日本コミュニケーション研究』掲載論文

『日本コミュニケーション研究』第49号 第1号(令和2年11月発行)

研究論文:

IMAI Tatsuya, "What Helps International Students Disclose Themselves and Be Assertive to Host Nationals for Their Cultural Adjustment?: Focusing on Language Ability and Length of Stay"

山本真知子「『聞き損ない』の経験から考える記憶実践の可能性」

大島光代「発達障害が疑われる幼児への『自然法』を用いたコミュニケーションアプローチによる言語獲得の促進—聴覚障害児教育のスキルの活用と応用—」

『日本コミュニケーション研究』第49号 第2号（令和3年5月発行）

研究論文：

MORIIZUMI Satoshi, "Who Seeks Social Support from Whom?: Considering Impacts of National and Familial Cultures from Socio-Ecological Perspectives."

田崎勝也「道具的—自己充足的コミュニケーション尺度の作成—高次因子構造からの妥当性・信頼性の検討—」

### 学会賞の選考結果について

去る2021年3月8日～25日にメール審議にて学会賞の選考委員会を開催し、2020年度の学会賞について検討しました。今回は書籍の部への応募がなかったため、論文の部のみの審査となりました。その結果、『日本コミュニケーション研究』第49巻（2020年度）に掲載された論文のうち、森泉哲先生が執筆された“Who Seeks Social Support from Whom?: Considering Impacts of National and Familial Cultures from Socio-Ecological Perspectives.”を「学会賞（論文の部）」に推薦することになりました。この推薦結果は3月28日に行われた理事会において、審議の結果承認されました。森泉先生、おめでとうございます！

選考委員会は、以下のようにこの論文を評価しました。

日本コミュニケーション学会 学会賞（論文の部）

学会賞：MORIIZUMI Satoshi, "Who Seeks Social Support from Whom?: Considering Impacts of National and Familial Cultures from Socio-Ecological Perspectives."

本論文は日本とアメリカで協力者を募って行った調査の結果を比較することにより、ソーシャル・サポートを求める場面における文化の影響と家族内コミュニケーションパターンの影響について論じ、それらの変数の関係についてのモデルを提示したものである。投稿された論文の査読を行った2名の査読者から共に非常に高い評価を得た論文であり、査読者の1名からは「非常に完成度の高い論文」であり、「Results以下の議論内容も非常に説得的」との評価がなされた。もう1名の査読者からは、「研究の論理的根拠が明白であると共に、用いられた研究手法も妥当なものであり、分析も緻密に行われている。これまでに本誌に掲載された論文の中でも最も優秀なものの一つである。」との評価がなされた。審査を行った学術局メンバーもこれらの査読者と見解を一にするものである。

なお、学会賞の授与式は年次大会の総会の場で行うことを通例としてきましたが、2020年度の年次大会が中止となってしまったため、2019年度分の授与式を行ってありませんでした。この度2021年度の年次大会もオンライン開催となったため、2020年度分の学会賞の授与式も通例通りの形で行うことができません。そこで、2019年度分と2020年度分の学会賞につきましては、記念品を郵送させて頂くことと致しました。受賞者の方々には第50回記念年次大会にて簡単に「受賞のあいさつ」をお願い申し上げます。

（副学術局長:ジャーナル担当 大橋理枝）

## 事務局報告

### 事務局からのご報告とお願い

#### 1. 2021年度年会費の請求について

2021年度の年会費は4月下旬に請求書を発送しておりますが、学生会員・準会員の会員の方は、7月の申請締め切り後の請求書発送となります。

#### 3. 会費滞納による除名とジャーナル受け取りの権利について

過去3年間の会費がすべて未納の場合には、会則第12条および内規6に従い、特別な理由がない限り除名となります。また会則内規5に従い、前年度の会費が未納の場合にはジャーナルをお送りすることができませんのでご了承ください。

#### 4. 会費納入状況の確認について

会費の納入状況が不明の場合には事務局までお問い合わせください。事務局のメールアドレスは、jcom-post[@を入れる]bunken.co.jp です。納入状況をご確認の上、下記の郵便振替口座にお振込みいただくこともできます。なお、振込手数料は各自のご負担にてお願いいたします。

郵便振替口座番号 00160-2-603688

口座名義 日本コミュニケーション学会

(銀行口座からお振込の場合)

ゆうちょ銀行 (9900)

〇一九 (ゼロイチキュウ) 店 (019)

当座 0603688

ニホンコミュニケーションガッカイ

※海外在住などで振込が困難な方はクレジットカードでの会費支払いにも対応いたします。詳しくは事務局までお問い合わせください。

#### 5. 学生会員・準会員登録申請について

学生会員（大学院生対象）、準会員（学部生対象）として登録するには、登録申請が毎年必要です。既会員の申請期限は7月末日です。申請書のフォームは学会ホームページの「会員各種手続き」よりダウンロードし、学生証等のコピーを添付して郵送で事務局までお送りください。事務局の住所は次の通りです。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

日本コミュニケーション学会事務局

#### 6. 年次大会総会はがきについて

5月中に年次大会の総会葉書を送付いたします。必要事項をご記入の上、期日までに返送いただきますようお願いいたします。

## 7. マイページの利用開始について

昨年12月から「マイページ」（会員情報管理システム）が利用できるようになりました。マイページでは「会費納入状況の確認」「会員情報の検索」「会員情報の変更・確認」などができます。新しいHPの右上のバナーからログインできますので、できるだけ早い時期にアクセスしていただき、記載内容の確認・登録・更新をお願いいたします。マイページへのアクセスに必要なIDとパスワードは、年会費の請求書と一緒に送付しております。「お振り込みに関するご注意」の欄に〈マイページのご案内〉がありますのでご覧ください。もしこの用紙を紛失なされた場合には、日本コミュニケーション学会事務局（以下「学会事務局」とする）までお問い合わせください。

問い合わせ先： 日本コミュニケーション学会事務局

jcom-post[@を入れる]bunken.co.jp

## 8. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には次のいずれかの方法で手続きをしてください。

- (1) 日本コミュニケーション学会HPにある「マイページ」にアクセスし「会員情報の変更」を選択して必要事項を更新してください。メールアドレスの更新も「会員情報の変更」内で行うことができます。
- (2) 学会事務局までメール、郵送、ファックスのいずれかでご連絡ください。

## 9. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

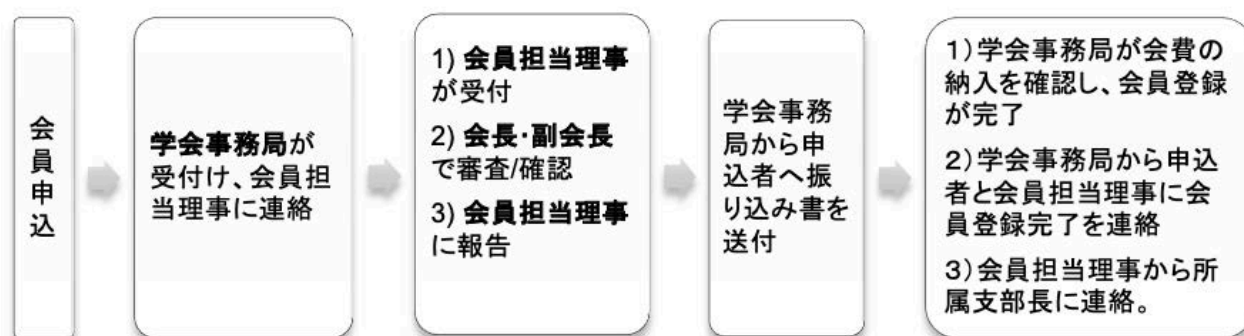
これまで発行されたジャーナルバックナンバーなど学会発刊物を購入されたい場合は、学会事務局にお問い合わせください。また、科学技術情報発信・流通総合システムJ-STAGE

(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>) あるいは国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) にも論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せずに複写をご希望の場合は、学会事務局までお問い合わせください。

## 10. 新規会員の手続き

JCAでは新しい会員を随時受け付けています。次頁のような流れで、新規会員の手続きを行います。ご不明な点がありましたら、学会事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願い申し上げます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 【会員申込から会員登録完了までの流れ】





## 広報局便り

### 1. 新刊情報提供のお願い

広報局としては、会員の皆様の新刊情報を学会公式 Twitter および ML で発信・配信していきたいと考えております。自薦、他薦を問わず、新刊のご著書に関する情報をお寄せいただきたく、お願い申し上げます。ぜひ、ご検討ください。

※学会ホームページに記載されている「基本方針」に合致しないものに関しては、学会公式 Twitter 等での発信をお断りする場合がございます。ご了承下さい。

<http://jca1971.com/keynote>

### 2. 広報局からのお知らせ

- ① 広報局では ML をもちいて、学会 HP における掲載情報を中心に会員の皆様あての情報配信をおこなっております。それらが届いているかをご確認いただいたうえで、もし不達の場合には、JCA ニュースレター今号 21 ページのご案内をご参照いただき、マイページへの登録手続き/メールアドレスの更新をお願いいたします。
- ② 広報局では各支部や各研究会の情報、他学会や教員公募などの情報も、ホームページにアップロードしていきたいと考えております。ぜひ、情報をお寄せください。
- ③ 皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。ホームページにアップロードしたいと思います。
- ④ ホームページ (<http://jca1971.com/>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸いです。

### 3. 支部ホームページの新サーバへの移行計画について

現在のところ支部ホームページ（東北支部、関東支部、中部支部、関西支部、九州支部のもの）は、そのすべてが旧サーバ上で稼働しております。学会の新ホームページが新サーバ上で稼働し始めることから、支部ホームページに関しましては、今後、新サーバへの移設作業を進めたいと考えております。関係する方々にご協力いただくことになると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(広報局長 松本健太郎)

## JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。宛先：今井達也 (imatatsu.jca[@を入れる]gmail.com)

### ① 著書紹介

会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文・英文で1枚程度（A4）の原稿を受け付けております。

### ② コラム：コミュニケーション教育

コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。

和文・英文で1枚程度（A4）の原稿を受け付けております。

### ③ 書評

コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評を受け付けております。

和文・英文で1枚程度（A4）の原稿を受け付けております。

### ④ NL 表紙の写真

ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会のNL表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。（写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。）

## 支部ニュース



## 北海道支部



(支部長 佐々木智之)

**昨**年度はコロナウイルス禍によりさまざまな活動が制限されましたが、3月にやっと人が集う（オンライン）活動が出来ました。例年行われている3学会合同研究会を行いました。

1. タイトル：2020年度道内3学会合同研究会
2. 関係学会 日本コミュニケーション学会  
(JCA) 北海道支部  
大学英語教育学会 (JACET) 北海道支部  
北海道英語教育学会 (HELES)
3. 開催日  
2021年3月10日(水) 18:30~20:00  
2021年3月11日(木) 18:30~19:50
4. 形態：オンライン
5. 内容

第一夜 2021年3月10日

研究発表1 JCA 北海道支部

「オンライン授業のためのICTリテラシーの検討」

長谷川 聡先生 (北海道医療大学)

研究発表2 JACET 北海道支部

“The Effect of Known-and-Unknown Two-Word Combinations on Intentional Vocabulary Learning”

笠原 究先生 (Hokkaido University of Education)

第二夜 2021年3月11日

研究発表3 HELES 北海道英語教育学会

「小学校英語オンライン研修講座の取り組み」

志村 昭暢先生 (北海道教育大学)

内野 駿介先生 (北海道教育大学)

研究発表4 HELES 北海道英語教育学会  
「SDCモデルを用いた教師のICT活用の分析～UDLの枠組みを取り入れた英語授業の実現に向けて～」

沢谷 佑輔先生 (北海道文教大学)

参加者は1日目が28名、2日目が34名でした。オンラインでの実施にすることによって、夕方でも、その時間に最も都合の良い場所からアクセスすることとなり、参加しやすくなったようです。発表者、主催者共にオンラインによる研究会に慣れてきているため大きなトラブルは起こりませんでした。今後の学会活動もしばらくはこの形式での開催が続くと予想されますが、対面と同様に活発な交流がなされることを期待しています。



## 東北支部



(支部長 関 久美子)

**昨**年2020年度東北支部定例研究会は2021年3月14日(日)にオンラインで開催いたしました。研究発表1本、そして前年度中止となった定例研究会で予定しておりましたシンポジウム&ディスカッションを開催いたしました。シンポジウム&ディスカッションでは、時代の流れとともに求められる「コミュニケーション能力」がどのように変化してきているか、また実際にコミュニケーション能力養成のためにどのような教育が実践されているかなど、改めて「コミュニケーション能力」をテーマに、支部会員がシンポジストとしてそれぞれの携わる教育現場や研究領域における現在の動向や問題などを提示し、その後参加者でディスカッションを行いました。プログラムは以下の通りです。

## 研究発表：

「グローバル化時代における異文化コミュニケーション教育をめぐって」

會澤 まりえ (尚絅学院大学)

## シンポジウム&amp;ディスカッション：

「コミュニケーション能力をめぐって」

コーディネーター

會澤 まりえ (尚絅学院大学)

## シンポジスト・テーマ

関 久美子 (新潟青陵大学短期大学部) 「コミュニケーション能力の定義をめぐって」

小林 葉子 (岩手大学) 「外国語教育におけるコミュニケーション能力」

五十嵐 紀子 (新潟医療福祉大学) 「医療介護教育現場でのコミュニケーション能力養成」

川内 規会 (青森県立保健大学) 「医療通訳者のコミュニケーション能力」

2021 年秋には第 22 回東北支部研究大会を予定しております。今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を注視しながら、その開催方法を検討していく予定であります。なお、東北支部の活動の様子は支部ブログでご紹介しております。ブログには下記 URL から支部ホームページに進みますとリンク貼っておりますので、お時間あるときにご覧いただければと思います。

<http://www.caj1971.com/~tohoku/index.html>

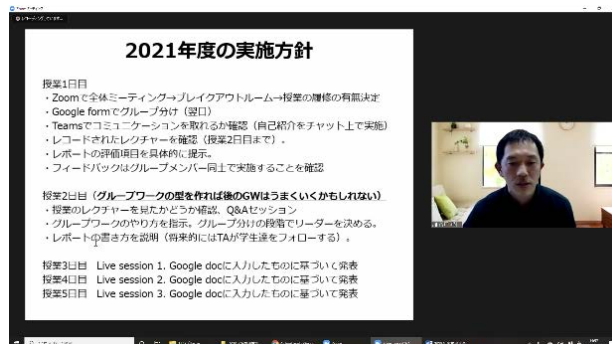
## 中部支部

(支部長 森泉 哲)

### 2020 年度支部大会開催報告

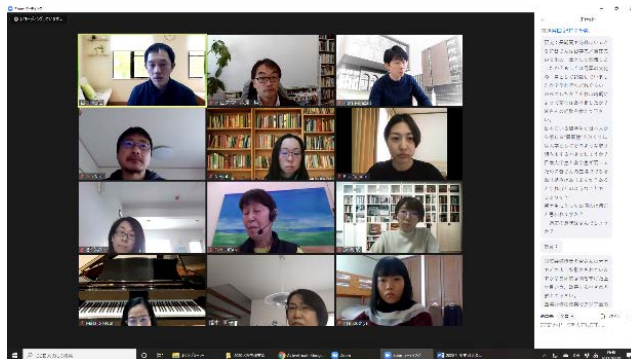
すべての会議がオンラインとなってしまった現在、今年度の支部大会は、議論をより深めるために対面での開催を目指していこうということになりましたが、やはり新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、オンライン開催となりました。

2021 年 3 月 13 日 (土) の午後約 3 時間にわたり、まず谷口紀仁先生 (名古屋大学教育学部講師) に「外国人留学生と日本人学生との異文化間接触について—研究・教育・実務の観点から—」という題目で基調講演をしていただき、その後参加者の先生と意見交換を行いました。



谷口先生は、大学で国際教育の実務者として関わられた経験だけでなく、現在研究者として、研究・教育にも携わられておられます。実務・研究・教育という 3 側面からのお話は非常に説得力がありかつ示唆に富むものであったため、意見交換も非常に盛り上がり、一度はお開きとなった会議もさらに 1 時間ほど続く熱い会議となりました。

感染症の影響を考慮して通常の支部大会と比較して自由研究発表等は行わない規模を縮小した大会とならざるを得ませんでした。参加者も他支部の先生も含めて 13 名の参加がありました。改めて基調講演をご快諾いただいた谷口先生はじめ、ご参加いただいた先生に感謝申し上げます。



2021 年度も運営委員の任期があと 1 年ありますので、引き続き支部活動を積極的に行っていきたいと思っております。まずは、画面上ですが、6 月の年次大会でお会いしましょう！

## 関西支部

(支部長 小山 哲春)

COVID-19 感染拡大影響を受け、2020 年度関西支部大会は 2021 年 3 月 6 日 (土) にオンライン (Zoom) で開催されました。今回の大会参加者は、北は北海道、南は九州から、関西支部以外の皆様や非会員の皆様も含め、延べ 17 名のご参加をいただきました。

今回の春季研究会は、2020 年 11 月の支部大会の基調講演後のディスカッションでも話題になったコロナ禍の教育に焦点を当て、「コロナ禍における大学での学び」と題したパネルディスカッションを行いました。

Part I: オンラインでの「学び」を振り返る

「学生は、リモートでの学習に慣れていた？」

守崎 誠一 (関西大学)

「遠隔授業の同期性と非同期性について」

北本 晃治 (帝塚山大学)

Part II: 新しい「学び」を考える 14:35~15:35)

「オンライン授業を機に、出席とテストの意義を再考する」

森口 稔 (京都外国語大学)

「対面授業の必要性を逆説的に考えてみる」

野島 晃子 (立命館大学)

「コロナ禍を契機にした従来型大学教育からの転換の可能性」

日高 勝之 (立命館大学)

5 名の先生より、2020 年度コロナ禍でのご自身の授業経験とその分析を踏まえて今後の大学教育のあり方について示唆に富んだお話をいただき、その後、フロアを交えて全体ディスカッションを行い、「オンライン授業を、対面授業では享受できるものの欠如」と捉えるのではなく、「オンラインと対面の二項対立」を越えた、本質的な大学教育をあらためて考えることの必要性を強く

認識する機会とすることができました。以下、研究会後にいただいた参加者の先生からコメントを紹介させていただいて、ディスカッションの報告とさせていただきます：「対面授業に比べてオンライン授業の「欠けているもの」を意識していましたが、それは視点が不足していることに気づかされました。欠如、不可知を敢えて認識して、直接とオンラインの持つ間接さの利点を相補的に活用すべきと思い、示唆を得ました。欠如は、日頃当たり前に用いているコミュニケーション手段の機能を問い直すいい機会だと考えるべきですね。ちょうど、会話事態における沈黙と発話のように。」。

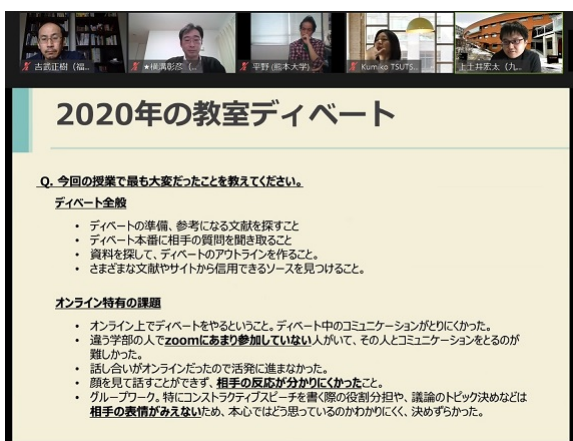
## 九州支部

(支部長 吉武 正樹)

桜と言えば 4 月ですが、今年は開花が早かったですね。まるで、コロナ禍で不遇の 1 年を過ごした最上級学年の方たちを祝福すべく、卒業式に開花を合わせてくれたかのようなようでした。

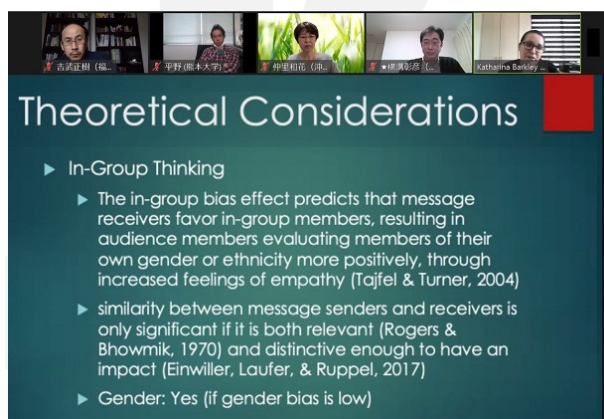
同じく桜咲く 2021 年 3 月 20 日 (土・祝)、九州支部では第 27 回支部大会が Zoom にて無事開催され、支部にとっても華やかな年度末となりました。

一度は早々と中止を決めた第 27 回大会ですが、大会実行委員長を務めた久留米工業高等専門学校横溝彰彦先生が立役者となり、復活の運びとなりました。大会テーマは設けず、個人発表への応募が 7 件。オンライン授業、多文化協働学習、高等学校の家庭科・情報科・公民科、オンラインディベート、ナショナルリティ、ジェンダー・女性像、沖縄米軍基地への反対運動、記憶の継承のケーススタディなど、多様な研究テーマがそろいました。



上土井宏太さん（九州大学大学院生）の発表の様子

Zoom 開催という初めての試みで不安もありましたが、ふたを開けてみると、オフラインの支部大会より多くの参加がありました（九州支部会員 22 名、他支部会員 5 名、JCA 非会員 6 名の計 33 名）。基調講演も複数のセッションもなく、全員が一つの「部屋」で 7 つの発表を聴き、議論するという、終始熱気に包まれた、小池知事も焦るほどの「密」な大会となりました。



カタリナ・バークレーさん（4月より西南学院大学専任講師）の発表の様子

3分の1の参加者が九州支部会員以外でしたが、今回、交通費も参加費も必要がなかったこともあり、いろんなところから多くの方々に、クリック一つで気軽に参加していただけたのでしよう。未だ新型コロナウイルスの蔓延も収まる兆しがなく、今年度の第 28 回大会も Zoom 開催になりそうです。第 27 回大会よりもさらに多数の方々の参加をお待ちしています。

そんな混沌とした状況のなか始まった令和 3 年度ですが、今年の入学式は全国的に対面が多かったようです。私が担当する教育学部中等英語専攻では、昨年度オンラインでしか会えなかった 2 年生の有志も招待して、1・2 年生とともに新しいスタートを切りました。

ピンチはチャンス。こういう状況だからこそ、もっとワクワクした年にしたいものです。

連絡先

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

日本コミュニケーション学会事務局

Tel: 03-6824-9372

Fax: 03-5227-8631

[jcom-post@\[をを入れる\]bunken.co.jp](mailto:jcom-post@[をを入れる]bunken.co.jp)

## マイページ登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

### 1. マイページの利用開始について

マイページでは「会費納入状況の確認」「会員情報の検索」「会員情報の変更・確認」などができます。新しい HP の右上のバナーからログインできますので、**できるだけ早い時期にアクセスしていただいて、記載内容の確認・登録・更新をお願いいたします。**マイページへのアクセスに必要な ID とパスワードは、年会費の請求書と一緒に送っております。「お振り込みに関するご注意」の欄に〈マイページのご案内〉がありますのでご覧ください。もしこの用紙を紛失なさった場合には、日本コミュニケーション学会事務局（以下「学会事務局」とする）までお問い合わせください。

問い合わせ先： 日本コミュニケーション学会事務局  
jcom-post[@を入れる]bunken.co.jp

### 2. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には次のいずれかの方法で手続きをしてください。

- (1) 日本コミュニケーション学会 HP にある「マイページ」にアクセスし「会員情報の変更」を選択して必要事項を更新してください。メールアドレスの更新も「会員情報の変更」内で行うことができます。
- (2) 学会事務局までメール、郵送、ファックスのいずれかでご連絡ください。

### 編集後記

□ コロナ禍の影響を受け、大学は大きな変化を急激に求められました。まさにその煽りを受けて、私も意識が朦朧とした中でこの編集後記を書いております笑 特に『対面授業 or オンライン授業』の狭間に立たされ、ある一方の希望を満たそうと考えると、もう一方の希望が満たされない、というようなジレンマを抱え、精神的にも参ってしまうことがありました。両者共に、それぞれのナラティブを抱えており、そのナラティブを紐解く作業が必要であると感じます。それを担うのがコミュニケーション研究者であり、本来ミディエーターのような貢献をするべきかと思います。その一方で、個人的には大学人としての自分、家庭人としての自分、学会理事としての自分、など様々な自分を抱えており、自分の身の回りのことさえミディエートできない状態で手一杯というのが現状であり、多分学会員のみならずも同じだと存じます。良い意味で『手を抜き』ながら、まずは目の前のやれることをしっかりとやるのが大切だと感じています。と、言っているそばから次男がおしっこを漏らしますので、失礼いたします。新しいパンツどこだっけな。。。

広報局 ニュースレター担当 今井達也